



Pick Up News GWも経て前期は折り返し地点。1年生は大学生活にも慣れてきた頃でしょう。4年生は就職活動や進路検討が本格化しているところ。昨年以上に建設・建築関連の就職内定状況は早くなっています。インターンシップなどを経ての選考早期化も進んでいます。2・3年生も早めに関心の目標とするところや進路を意識することが必要になってくるでしょう。また建築学科では大学院進学も進路選択の一つとして定着してきました。春季推薦（4年生5月の出願）で入学すれば奨学金も得ることができ、実質的には国公立の授業料よりも安くなります。大学院進学率はまだ2割弱というところですが他大学並みの3割を目指しています。6年間で建築学を学ぶという考え方もあります。積極的に進学という進路も考えてみて下さい。大学院だから見つかる職種や進路もあります。他大学大学院生と競わなければ就けない仕事（例えば設計職）もあります。建築学科には先輩も多くいますので話を聴くこともできます。大学院のことをもっと知りたい・聴きたいと言う人は遠慮なく相談して下さい。さて、5月から学科公式Instagramでは在学生サポーターによる投稿も始まっています。学生目線の学科・大学での学び・生活など、これまで以上に読んで読んで楽しんでください。フォローをお願いします！

私はこの大学が第一志望ではなくて、はじめは意欲をもって勉強できる気がしなかったです。この大学をすべり止めとして選んだのは仙台にあるという理由だけでした。入学する大学の偏差値ばかりを気にしていたので、この大学に入学するとなったとき、四年間楽しく、充実した大学生活にできるか不安でしたが、入学してから様々な大学のオリエンテーションを聞き、この大学なら頑張れそうだなと思えました。

「未来のエスキースを描く。」というスローガンについて聞いたとき、私はどんなエスキースを描きたいのだろう、建築のどんな分野でどのように学びたいのだろうと考えました。私は普通科高校出身で建築の勉強はしていませんでしたが、建物を見るのが好きで、旅行先で建物の写真をたくさん撮ったり、祖父が工務店を持っているのでその現場を見学したりしていました。建物を見るのは好きでも、建築を学んで一級建築士になれればいいなとか思っていなかったもので、どんなことを研究して、何について学びたいのか、今はまだわかりません。

私が何をしたいのかを見つけるということ意識して積極的にグループワークでまとめたり、少しでも疑問に思ったことや面白いと思ったことを追及したり、社会が建築に求めるものは何かを学んで考えたいです。

私は将来自分が生まれ育った東北地方で建築士になりたいと考えています。小学三年生の頃、両親が新築を建てた時に担当してくれた建築士の方の両親の願いや希望に沿うように家を設計していく姿を見て、私も人々の願いを家として残すことが出来る建築士の仕事に憧れを抱くようになりました。

建築士になるためには簡単なことではなく、たくさんの科目の勉学や資格を取得しなければならないため、東北地方にあり、実際に実験を通して学ぶことができることや資格取得支援講座を利用してたくさんの資格を取得したいと考え、東北工業大学を受験しました。

これからの4年間は、普通高校から入学しているので専門分野の講義に思い通りに追いつくことができなかつたり自分が作りたい作品が作れなくて落ち込むこともあったりすると思いますが仲間と一緒に励まし合い、無事笑顔で卒業し立派な建築士になれるように頑張りたいと思います。



今年も新入生149名全員の声を集めた「ここで学ぶこと」を発刊しました。それぞれ、ここで学に至った経緯も思いもさまざま。そのような多様な、個性あふれる149人がいるからこそ大学生活は楽しくもあり、また建築学科の魅力にもなります。入学したときの思いや気持ちを忘れずに4年間頑張ってください。



5月から在学生が学生目線で情報発信してくれています。Please follow us!

私はたくさんの人に笑顔と居場所を与えられる建築士になるために東北工大建築学部に入りました。住宅や施設を設計することは依頼主にとって一生のことで何度も挑戦できることではないと思っています。その一生を大切にできる建築士が社会に笑顔を届けられると思います。

自分の将来を想像する=未来のエスキースを描く この言葉通り、将来を想像したとき今自分には何が必要なのか考えました。まず多くの人とコミュニケーションをとること。卒業生との交流会をやっていると聞いてとても興味がわきました。交流会を通して建築学をより深く追求できると感じました。他にグループワークや研究室を通してコミュニケーション能力をつける。多くの人と関わることで自分にはない考えを得られると思いました。

最後に私は東北工大で学んでいく中で、自分なりの答えを見つけたらまた新たな答えを見つけていきたいと考えています。大学では正解はない、と先生たちほとんどがおっしゃっていたのがとても心に響いたので答えを見つけたらそこで終わりにせずまた新たに見つけていきたいと考えます。

Pick Up Lab. こんにちは！錦織研究室です。現在院生3名、学部生11名の14名で活動しています。今年度の活動内容は、研究室に置く家具を図面作成から自分達で行うDIYゼミや、卒業論文を書く学部生を中心に取り組んでいる親子の外出行動に関する論文・調査ゼミなどです。建築に対してはも真面目に活動しており、昨年度は「タカカツコンペ」に参加しました。各班で役割分担しながら作成し、審査員特別賞・日建学院賞をいただくことができました。和気あいあいとした雰囲気を楽しみながら活動しています！興味を持っていただけた方、錦織研究室でお待ちしています！錦織研究室4年 佐々木 芽依



タカカツコンペ応募3作品



DIYゼミの様子



3年 八島 溪哉 さん
仙台東高校 出身

Pick Up Student コロナ禍でのオンライン講義を経験したことで、集まって学ぶことのありがたみを深く感じる事ができています。自分以外の作品を見ることで受けた刺激や友人たちと課題に取り組んだ経験が建築学生としての感性や表現力、理解力を育ててくれたと確信しています。3年でのコース選択や研究室配属により、1,2年で共に学んだ友人たちとは少しずつ違った道を歩むようになり、顔を合わせる機会が減った中で講義前後にしているお互いの情報交換やさりげない日常会話が私にとってかけがいのない時間です。将来仕事をしていく中で、こういった思い出や経験が人生の糧になると信じ、残りの学生生活を有意義なものにしていきたいと考えています。



2年 志田 心音 さん
東桜学館高校 出身

Pick Up Student 大学に入学してから約1年が経ちました。工大にいて、仲間の優しさを感じます。体調を崩しなかなか学校に行けない時も、友達のお陰で頑張ることが出来ました。1人では難しいことも、仲間となら乗り越えられるのだと、改めて友達の大切さを感じました。先生方も親身になって相談に乗って下さります。このように、工大には素敵の方が沢山います。辛い時もあるかもしれませんが、私は仲間と一緒に卒業できるように頑張りたいです。